

---

## 学校検尿

岡田 晋一

鳥取大学医学部 周産期・小児医学分野

---

昭和49年(1974年)から小・中学生を対象とした学校検尿が施行された。その目的は、慢性腎炎を早期発見し治療することにより慢性腎臓病を減らし腎不全への移行を阻止することである。本講演では学校検尿で血尿・蛋白尿から発見される疾患と学校検尿システムについて概説する。

学校検尿で発見される血尿・蛋白尿は、①血尿のみ②蛋白尿のみ③血尿・蛋白尿両者、のパターンがありそれぞれで見つかる疾患の内訳が異なる。代表的疾患を詳述する。

学校検尿システムにおいて事後措置は重要であるが、地域によっては事後措置が十分なされていないことがあり改善されるべき点である。事後措置システムの一例として鳥取県米子市を提示しその重要性について解説する。

学校検尿は長年にわたり全国で行われておりその成果も明らかであるが、一方で課題点も残されている。この課題点を提起し今後の学校検尿について考えたい。